

# 品川区いじめ対策委員会（第1回）

## 議事録要旨

### 1 日時

平成28年9月20日（火）午前9時30分から午前11時30分まで

### 2 会場

教育文化会館 第1講習室

### 3 審議

- (1) 品川区いじめ対策委員会（品川区いじめ防止対策推進条例）について
- (2) 教育総合支援センターの組織・機能について
- (3) 平成27年度の報告（目安箱・専用電話・アイシグナル）
- (4) 平成28年度「いじめ防止対策の取組」について
- (5) まとめ

### 4 出席者

斎藤尚也委員長、池田幹雄委員、岡本淳子委員、新藤こずえ委員

### 5 発言要旨

#### (1) 品川区いじめ対策委員会（品川区いじめ防止対策推進条例）について

- 品川区では平成25年から様々ないじめ対策を講じてきた。しかし現在、いじめは社会問題として、これからも一層複雑化することが予想され、「いじめは、どの学校にも、どの学級にも起こり得る」という認識の下、日常的に未然防止に取り組む必要がある。
- 平成28年4月1日、いじめの防止等について区の基本方針を明らかにし、子どもの教育に携わる全ての人がオール品川で解決に向けて取り組むため、「品川区いじめ防止対策推進条例」が施行された。本条例は、平成25年に公布された国の「いじめ防止対策推進法」を踏まえ、本区の実態や実情に応じた内容を取り上げた23条の条文で構成されている。

本委員会は、教育委員会の諮問に応じ、いじめの防止等のための対策の推進について審議し、教育委員会に意見を述べるものである。また、重大事態が発生した場合に、本委員会は事実関係を明確にするための調査を行うことになる。
- いじめは突然起こることではなく、普段からの人間関係の延長線上であり、子どもたちがいろいろなことを発展させていくときのプロセスに現れるといっても過言ではない。

子どもたちの問題行動は大人が考える概念で線を引けるものではなく、遊びの一環のなかに入ってくることもある。そのため、いじめを探すという視点ではなく、いじめのことも念頭におきながら本来の学校生活が安定しているかどうかという視点で見ていくことが大事。

- いじめの要素の他に生活や家族の問題等の複合的な要因があるケースには、委員会が立ちあがることによっていじめが主な原因だとみられてしまうことについて難しさを感じる。

## **(2) 教育総合支援センターの組織・機能について**

- 昨年度4月1日に教育総合支援センター（以下「センター」という。）を開設し、学校、保護者、児童・生徒の相談窓口として機能を果たせるようにと様々な課題を検討してきた。ワンストップサービスをコンセプトにセンターで情報を一括して、相談があれば関連する組織または部署にまわしながら進めていく。また、一人の生徒・児童、保護者に対してセンターの各係がお互いに情報共有することで、より適切な対応を進めている。
- 23区では支援に特化した教育センターをおいている区が多い。正面から入ってくるのではなく、そっと入ってきたい子どもも多いため、役所と距離をおいていることが多い。
- 各係で兼任はしておらず、それぞれの係の内容に従って仕事をしている。それぞれの係がチーフを1名決めていて、情報共有しながら進めている。
- 教育相談室では不登校に関する相談、子どもの性格・養育についての相談が多く、いじめに関する相談はあまりないのが現状。特別支援教育係では就学相談の件数が増加し、事前に学校に状況が伝えられ連携を図ることができている。センター全体としては、相談窓口が一本化されたことで学校からの相談が増加し、ワンストップサービスという機能が充実してきた。

一方、保護者の方との連携を進めていくことが課題である。PTAとの連携について、いじめ根絶バッジが効果的であると考えている。今後も連携を深めていく必要がある。

- 保育園児や高校生の相談も多く入ってきており、総合的に青少年の相談業務にあたっているという状況である。

## **(3) 平成27年度の報告（目安箱・専用電話・アイシグナル）**

- 目安箱の累計をみると、「友だちがいじめられている」という投書が少ないが、いじめの未然防止という観点では、傍観者の立場の子どもがいじめがあるということを発信することが大切である。
- 市民科での学習の他に、傍観者の声を拾うために目安箱やいじめ根絶バッジを活用し、子どもたちが相互で見合っていじめをなくしていこうという取り組みを進め

ている。

- 当事者以外の発言が重要である。大人がシステムを作るだけでなく、子どもの側からいじめがあってはいけないという意識を醸し出し、アクションを起こすことができるような方法も並行して進めていきたい。

#### (4) 平成28年度「いじめ防止対策の取組」について

- 実際の学校の情報はセンターで把握しているので、学級風土調査の結果と相関がみられた場合には、要注意の学級等の傾向を検証できる可能性がある。
- 学級風土調査について、いじめとの因果関係をはっきりしようと意図的にしすぎるのも、学校が消極的になる可能性がある。側面資料として利用できる。
- 品川学校支援チーム HEARTS（以下「HEARTS」という。）では学級風土調査の情報や各学校からの情報を集めてリストを作成している。その中で重なって要配慮として名前が挙がっている子もいて、介入していくべきと判断するのに有効に活用できている。また、調査結果からの学校の状態を頭にいれて対応すると上手くいくことが多いと感じている。
- 品川区ではいじめの発見件数が減ってきているが、見逃しがあるかもしれないという視点でみることも必要。件数が少ないのが良いとも言い切れない。どうやって声を拾っていくかということが今後の課題。
- いじめは表面には出てきにくいのが自然。他のことで相談をしているうちにでてくることがある。本質的に学校生活が健全に行われているかということを観察するなかで、いじめの声を拾えるかが重要。

#### (5) まとめ

- 今回委員会に出席して品川区の取組みがよく分かった。品川区ではいじめの早期発見、未然防止ということに非常に意欲を抱いていると思うが、目安箱やアイシグナル、HEARTSにいかにもっていくのが難しい。相談した結果、どう対応していくのがより具体的に分かれば、利用しやすいのではないか。
- 不登校の相談にのっているなかで、半年位して初めていじめがあったことが分かったケースがある。子どものプライドを大切にしながら支援していくのは時間もかかるし難しい。
- 第1回目のため委員会の進め方や基本的な部分についてご意見をいただいた。今回の意見を踏まえて、第2回目以降も可能な限りより充実したご意見がいただけるよう準備を進めていきたい。この委員会はオール品川でいじめ対策に取り組むという位置づけのなかで重要な委員会である。ここでの審議を基本にさらなるいじめ対策を進めていきたい。